

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる 児童の育成

目指す子どもの姿 きらきらかがやく母子つ子 よく考え行動する子 つながる子 心と身体を鍛える子

変容を目指す資質・能力 a知識及び技能 b思考力・判断力・表現力 c学びに向かう力 d情報活用能力 e課題解決能力 f学び続ける姿勢 gコミュニケーション能力

三田市長 阿部 恭大
研究主体【学力向上委員会】

前年度		継続性	4月		2～3月 年度末評価			
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
○書く・話す活動の充実 ○言語力の向上 ○読書活動の充実	○朝の会や算数の学習、特別活動を通して、自分の意見や感想を述べることができる。 ◆根拠となる部分を見つけて発表することには課題がある。 ○わからないことをわからないと自分から言うことができる児童も増えてきたが、一定数、言えずにいる児童もいる。 ◆読書には取り組んでいるが、絵本や学習漫画などが多い。学年相応の読み物などにも興味を持って読み、言葉の力をつけていきたい。	B	→	○言語力の向上 (a,b,c,d,e,f,g)	・「根拠となる部分」を明確にして、文章を書いたり話したりすることができる。 ・文章を書く力をつけるための言葉の力や表現力を付ける。 ・わからないことをわからないと自分で伝えることができる。 ・自分の言葉でめあてを立て、授業の構えと学びの足跡を残して工夫したノート作りをすることができる。 ・色々な読み物に興味を持つことができるようにする。	・国語を中心に、根拠となる部分を見つけて、発表したり文章を書いたりする場面を設定する。 ・日記や振り返りを書く際に、出来事の羅列で終わるのではなく、自分が考えたことや感想などを取り入れて詳しく書くことができる。 ・わからないことや自分の思いを言葉で伝えることの大切さや、おたずねの意義を子どもたちに伝え、わからないことを自分から言えるようにする。 ・発表したことを書き残していくことができるようにする。 ・学年相応の読み物に興味を持ち、言葉の力をつけることができるようにする。		
○個別指導の充実 ○漢字・計算等の基礎基本の定着と計算力の向上	○年度途中より、6回1セットを前半、後半に分けて計算アタックを実施した。前半と系統が似た問題を後半に設定した。4回目は、若干タイムが遅くなることも多いものの、5回目以降、タイムと正解率がどちらも高くなる児童が多かった。今後も、計算アタックを通して計算力の定着を図っていく。 ○毎週の漢字アタックが、身近な目標として意識しやすい子どもたちは、毎週それに向かって努力している。目に見えない目標は、意欲の持続に効果的である。 ○漢字アタックでは90%の正解率である。 ◆学期末のテストでは正解率が70%にとどまっている。今後、さらに漢字の定着を図っていきたい。	A	→	○基礎基本の定着と計算力の向上 (a,b,c,d,e,f,g)	・一週間のうち、漢字1回と算数2回の計3回、朝学習を行い、漢字や語彙、計算などのテストで、正答率80%以上を目指す。 ・毎日の宿題として漢字練習や計算ドリルを行い、漢字や計算力の定着をはかる。また、朝学習で、点数やグラフで児童が成果を可視化できるようにし、意欲の向上につなげる。	・計算アタックの正答率をグラフにして視覚化し、自分の成果を確認できるようにする。4回目の正解率も維持できるようにする。 ・週2回、計算アタックを行い、計算力の向上を図る。6回1セットとして行い、前半3回、後半3回として同じ単元の問題を行う。前半3回の経験を生かして、4回目も正解率を維持できるようにする。 ・毎日の授業、宿題で漢字を書く機会を設け、週1回の漢字アタックで成果を確認し、定着を図る。また、宿題等で復習の機会を設け、学習した漢字の定着を維持していく。学期末のまとめテストでも正解率を高める。		
○家庭における学習及び生活習慣の定着・向上 ○家庭でのコミュニケーションの充実	○保護者と連携し、睡眠時間の大切さについて考えることで、子どもたちは、睡眠時間を意識して生活することができた。 ◆十分ではなく、子どもによっては、睡眠が足りていない様子も見られる。今後も、規則正しい生活のリズムが定着するように、懇談会や通信等で発信していく。 ◆タブレットで撮った写真を使ってのスピーチや週末の日記に取り組んだが、話題が広がらず、自分で課題を見つけるといった自主性を育てるところまでには至らなかった。新聞やニュース等で話題を広げ、社会の情報にも関心をもって新しい課題を見つけ取り組めるようにしたい。 ◆家庭における学習時間が少ない。	B	→	○家庭における学習及び生活習慣の定着・向上 (c,e,g)	・家庭と連携し、生活リズムを整え、計画的な学習習慣を定着させる。 ・気になる情報を見つけようとする自主性を育てる。	・道徳をはじめ、保健や学活等、様々な場面で生活習慣や学習習慣を身につけることの大切さを学習する。学習したことを懇談会や通信、HP等で発信する。 ・朝や放課後に新聞やニュースを見るように促し、社会の情報に関心を持たせる。学校内で会話をすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。		
○情報活用力、プログラミング思考の向上 ○タブレット端末の利用と説明力の向上	○国語や社会、総合的な学習の時間を中心にタブレットの検索機能を活用して調べ学習を行った。自分なりに検索方法を模索したり、ほしい情報について書物だけでなく、インターネットを活用してたくさん集めたりすることができた。ほしい情報を取捨選択する力がついてきている。 ◆情報活用力についての指導が学年によって差があるので、情報活用力についてのカリキュラムを来年度組み込んでいき、どの学年も意識して指導が行えるようにしていく。	B	→	○タブレット端末を取り入れた授業の工夫・改善 (b,d,e,g)	・各教科において、タブレットを活用し、学習に効果的に使用できるようにする。 ・インターネットの情報から必要なものを取捨選択し、調べ学習に活用していく。 ・全学年、全校生が情報活用能力を身につけていく。	・授業において、タブレット活用の機会を設け、効果的な活用方法を身につけられるようにしていく。 ・必要な情報について、書物だけでなくインターネットも活用できるようにする。その際、教師は有益なサイトをいくつか選択し、児童に提示できるようにする。 ・年間カリキュラムをもとに、情報活用能力の育成を図る。GIGAワークブックなどの資料も効果的に活用していく。		
○ガイド学習を生かした授業づくり ○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展	○全員が年間2回以上授業公開し、事前事後の研修会で子どもの見取りや教材解釈、教師の出場等について共通理解を図ることができた。 ◆「深い学び」につながるおたずねについては、明確にすることができなかった。 ○研究推進担当を中心に、新しく異動してきた教師にガイド学習の取組について丁寧に引き継いでいきたい。	A	→	○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展 (a,b,c,d,e,f,g)	・全員が年間2回以上授業公開し、事前事後の研修会で子どもの見取りや教材解釈、教師の出場等について共通理解を図っていく。 ・「深い学び」につながるおたずねとはどのようなものか研究し、授業で実践していく。 ・他教科でも「ガイド学習」のスタイルを取り入れ、おたずねを通した深い学びの実現を図る。	・本校が目標とする「深い学び」につながるおたずねとはどのようなものか明確にし、それをもとに指導につなげていく。 ・研修や日々の授業を通じて新しく異動した教師に、ガイド学習の取り組みを丁寧に引き継いでいく。 ・他教科の授業においてもおたずねを意識した授業設計を行い、教師、児童みんなが授業の深まりを意識できるようにする。		
○学校・学級便りや学校H・Pを活用した情報の発信 ○幼・小・中の11年間の連続性を共有した学校園所連携の推進	○学校や学級が積極的に情報発信を行うことにより、保護者アンケートでは、肯定的な評価となっている。引き続き積極的に情報発信を行い、家庭の話題となるように努めたい。 ○他校の学年や全校で交流する活動を通して、自信を持って行動できた。 ○中学校区の担当者連絡会で得た情報は、全職員で共有できた。	A	→	○連続性を共有した学校園所連携の推進 (f)	・ありまふじ幼稚園、志手原小学校、高平小学校、小野小学校、上野台中学校との交流を計画的に推進する。 ・小規模校との交流を計画的に推進する。(計3回) ・週一回の学級通信、月一回の学校便りに加え、HPで日々の児童の様子を掲載する。	・他校の児童と交流することで、人との輪を広げられることができる児童を目指す。 ・中学校区で開催される生指担当者会、養護教諭研修会、キャリア教育担当者会、特別支援教育担当者会で得られた情報を全職員で共有し、本校の課題を見つける。 ・学校、学級、学習の様子、行事等を積極的に発信する。		

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず